

# 戦後日本の地区まちづくりにおけるマネジメントシステムの再評価 地方行財政における寄附の仕組みが有していた機能と課題に着目して

日本建築学会計画系論文集/ No.620/ pp.127-134/ 2007年10月

正会員 佐藤宏亮君

高度成長期における地区まちづくりにおいて、地方行財政に果たした寄附の役割を研究の対象として、その仕組みが有していた機能と課題に着目した本研究は、非常に興味深いものであり、今日の成熟社会において、地区住民の主体性と社会貢献を活かした創造的なまちづくりを展開するためのマネジメントシステム構築を検討する際にも、活かされるものであると評価できる。寄附は、シビルミニマム事業が主たる対象とはなっているが、負担金が集まったところから事業を行うものであり、画一的なばらまき行政とは一線を画すものであると言ってよい。地区の課題解消のために、地区に一定の負担が課されるという社会認識は、地区住民の責任と自覚を培うことにつながっていく。寄附の仕組みが有していた機能を体系的に再評価し、現代の社会背景や行政的仕組みの中で組み替えていくことにより、新たなマネジメントシステムとして機能することが期待される。